

<http://www.town.kumatori.lg.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/12/H2303T-honkaigi.pdf>

8 番（渡辺豊子君）――略――

2 項目めは発達障がい児支援について伺います。

平成 20 年 9 月、教科用特定図書普及促進法、いわゆる教科書バリアフリー法が施行されました。著作権法も改正され、発達障がいや弱視等の視覚障がいのある児童・生徒のための拡大教科書や、デジタル化されたマルチメディア D A I S Y 版教科書、略してデージー教科書が制作できるようになりました。デージー教科書とは、パソコンなどを活用して、通常の教科書と同様のテキストの画像を使用し、画面に教科書の文章や写真、絵が映し出され、録音された音声を聞きながら、カラオケの画面のように読み上げられる部分の文字がハイライトされていきます。画面の背景色や文字の大きさ、読み上げる速度などを自分で調整することもできるというものであります。ボランティア団体などが文科省から入手した教科書の電子データをもとに作成して、財団法人日本障害者リハビリテーション協会を通じて C D - R O M の形で配付がされております。これにより、学習障がいを持っている児童・生徒が教科書を読む際に、文中の語句や行を抜かしてしまったり、文字がにじんで見えたりする子どもの読む負担を軽くし、内容の理解に集中できるという効果が期待されております。

しかしながら、当初文科省はデージー教科書の配付対象者を障がいのある児童・生徒本人に限定し、教員などへの配付を認めない、在籍学年以外の同教科書の配付を認めないとしておりました。昨年 4 月、我が公明党の山本かなえ参議院議員は委員会でそういった文科省の方針が普及を阻む要因となっていると指摘し、改善を求め、結果、翌 5 月、教員や他学年の生徒への同教科書の配付が認められました。さらに、従来は財団法人日本障害者リハビリテーション協会から C D - R O M を希望者に郵送する形で提供されている同教科書のデジタルデータを昨年 8 月よりインターネットで配信する事業もスタートいたしました。利用者の郵送料等の費用負担が解消され、利便性が大きく向上いたしました。実際に本町の西小学校の支援学級担当の平峰先生がデージー教科書を活用した支援教育に取り組んでくださっております。先日、山本参議院議員とともに授業を参観させていただきました。対象の生徒が自分でパソコンを操作して画面の色を変えたり、文字の大きさを変えたり、音声の声を先生の声に変えたりして、先生と楽しみながら授業を受けていました。デージー教科書の効果について、先生は、落ち着きのなかった子どもが学習意欲を持つようになった、弱視でもいろいろな種類の障がいがあり、その障がいに合わせて教科書を編集できる。お母さんの声に編集できるので子どもが喜んで学習するようになった、文字を一字一字読んでも形として理解できない子が、デージーだと画像を見て形として理解できるようになったと語ってくださいました。発達障がい児支援としてパソコンを活用して文章を音声で再生し、色で強調したり文字の大きさを変えることのできないデージー教科書は、教科書の内容の理解を促す効果があります。今は西小学校だけの活用ですが、今後デージー

一教科書の普及と教員への意識啓発等についてどのようにお考えですか、お聞かせください。

議長（奥野博通君） 釈迦戸教育委員会事務局理事。

教育委員会事務局理事（釈迦戸葉子君） それでは、渡辺議員のデイジー教科書についてのご質問にお答えします。

特別支援教育が平成 19 年に学校教育法に位置づけられ、発達障がいを含む支援の必要なすべての子どもが支援教育の対象となりました。そこで、平成 20 年には教科書バリアフリー法等が改正され、教科書の内容をわかりやすくつくりかえることが可能となり、発達障がいや視覚障がいのある子どものためのデイジー教科書が制作できるようになりました。議員ご指摘のデイジー教科書は、パソコンで教科書を再生するものであり、文字を音声で読み上げ、それを聞きながら文字を見ることができるようになります。本町では先ほど言われたように西小学校において弱視児童が文字の習得をするためにデイジー教科書を活用しております。熊取中学校の通級指導教室においては英語の音読が苦手な生徒に活用し、南小学校の通級指導教室においては国語の読みが困難な児童の学習意欲が高まったという報告を受けております。デイジー教科書を活用することは、子どもが意欲的に学習に取り組むきっかけづくりとなり、教科書を自力で読めるようになるための橋渡しとして有効であると考えております。

また、デイジー教科書の普及と教員への意識啓発につきましては、これまでさまざまな取り組みを行っております。小・中学校全校巡回し、デイジー図書の効果について説明するとともに、デイジー図書を利用できるようにソフトを配付いたしました。ことし1月には熊取人権教育研究協議会の報告会においてデイジーを使った報告がなされ、町内全教職員に紹介することができました。さらに泉南地区支援教育研修会におきまして、デイジー図書の紹介と活用についての報告も行っております。しかしながら、現在はデイジー教科書の提供はボランティアによる支援に依存されていますので、個人でダウンロード等して手に入れる必要があることや、著作権の問題があり、一斉授業でデイジー教科書をスクリーンに映し出すことができないなど課題もございます。そのような課題もございますが、今後ともデイジー教科書の普及と教員への意識啓発を行うとともに、デイジー教科書を活用した実践を教育委員会と教職員間で共有し、より効果的な活用方法を研究してまいりますので、何とぞご理解とご協力をお願いしまして、ご答弁とさせていただきます。

議長（奥野博通君） 渡辺豊子君。

8 番（渡辺豊子君） ありがとうございます。本当にこのデイジー教科書の有効性を本当に一番察知していただいて、取り組んでいらっしゃることに、真っ先に本町の教職員の方が取り組んでくださっていることに大変感謝いたしております。その中でちょっと聞かせていただきたいんですが、今そういった発達障がいの障がいを持たれてるお子さん、その中で

とりわけ読んだり書いたりすることが困難な、苦手な、そういった子どもさんというをディスレクシアと言われるそうなのですが、そういった子どもさんは本町で小・中学校でどのくらいいらっしゃいますでしょうか。

議長（奥野博通君） 釈迦戸教育委員会事務局理事。

教育委員会事務局理事（釈迦戸葉子君） だれまで入れるかというようなところはとても難しいと思います。ただ、昨年度私と一緒に先ほど申しました平峰先生とかと一緒に調査しましたところ、大きくいうと約 160 人ぐらいだと考えております。特に広く考えた場合ということです。

議長（奥野博通君） 渡辺豊子君。

8 番（渡辺豊子君） わかりました。文科省の調査によりますと、載ってたんですけれども、一応そういった学習に対する障がいを持たれてる子どもさんというのは大体 4.5 %で、25 人に 1 人はいらっしゃると。また、その中でも読み書きが困難なディスレクシアの方は 2.5 %、約 27 万人ということで、40 人の 1 人の方はいらっしゃるといふふうに文科省の調べの中ではあるそうなんです。本町におきましても 160 人の子どもさんがそういった読むこと、書くことに困難を感じておられるということですよ。その児童の方に本当に必要なデージー図書、その児童に本当に適切にデージー図書を活用していただけたらと、そのように思うわけなんですけれども、本当にその 160 人の生徒さん、児童さんというのは、やっぱり本を読みたいんだと思うんです。読みたいんだけど読めない。

そういうところの児童に対する対応が本当に必要なというふうに思っております。今、ご答弁いただいた中で、南小学校と今年度開設する熊中のほうの通級指導教室のほうでも、今現在デージー教科書を使って指導されておられるということなんでしょうか。その辺ちょっと詳しく説明していただけますでしょうか。

議長（奥野博通君） 釈迦戸教育委員会事務局理事。

教育委員会事務局理事（釈迦戸葉子君） まず、南小学校の通級指導教室での授業の様子なんですけれども、先ほど答弁の中でもお話ししましたように、去年、おとししと 2 年かけて全部の小学校、中学校を平峰先生と回らせていただいて、紹介させていただいた中でだれに使おうかというふうなことを考えていただいたときに、南小学校の通級指導教室の先生は専門性もありますので、まず使ってみようということで、放課後に来られますので、ゆっくり時間とれております。1 人 45 分ぐらい、1 対 1 対応しますので、使ってみたらとても集中しやすくなったと。その勉強したことが学校に戻っても生かされてるということで効果があるということを 1 つ今年度になってお伺いしました。それから、熊取中学校のほうの通級教室は今年度から開設しておりますけれども、英語の発音が入っている CD-ROM 使っていただきましたけれども、やはり一斉授業の中では難しいんですけれども、

そういうふうに1対1対応の中でゆっくりと音声は何回も聞き返すことができます。それからハイライトされますので、目で見て、それから音で聞いてそのことがわかる、英語の単語もわかるというふうなことで効果があったという報告を受けております。ということは、1対1対応の中ではとても効果がある、まずきっかけづくりに本当になるのかなというふうに実感しております。

議長（奥野博通君） 渡辺豊子君。

8番（渡辺豊子君）わかりました。今そういうところで対応していただけるということでしていただいているところなんです、各小・中学校に支援教室ありますよね。それぞれの教室にそういったパソコンを配置し、ダイジー教科書を使っの1対1の指導というものはできないんでしょうか。

議長（奥野博通君） 釈迦戸教育委員会事務局理事。

教育委員会事務局理事（釈迦戸葉子君）各小・中学校の支援学級、支援教室にはパソコンを置かせていただいております。あとは、先ほど言いましたようにその必要性を考えて、ニーズに応じてできるだけ使っていただきたいということで、先ほど申しましたように研修をさせていただいておりますので、今後、さらに少しずつその子の実態に応じて使っていただけるよう、さらに進めてまいりたいと思っております。

議長（奥野博通君） 渡辺豊子君。

8番（渡辺豊子君）わかりました。先生の研修というものが必要になってくるかと思いません。パソコン操作とかそういったものがあるかと思うんですが、私も参観させていただきまして、子どもさんが本当に自分で操作して音読やっておりましたので、取り組めば先生ではなくて子どものほうが先にパソコン操作すぐにはできるのではないかなというふうに思いますので、また教育委員会としてそういったダイジー図書を団体としてダウンロードできるというふうにも聞いておりますので、そういう形で普及をまたしていただきたいなというふうに思います。

今そういったところでちょっと資料をつけさせていただいてるんですが、平成21年に大阪市立中央図書館主催でダイジー図書を使っの研修会という形で講演会があったんですが、そのときに本町の平峰先生も一応活動報告を代表でしてくださったそうなんですが、その中で先生がこのダイジーを使っの授業評価というものを報告されておられます。その中で、今回資料につけておりますのはその報告会に参加した保護者の方の声を少し資料としてつけさせていただきました。ちょっと見ていただきたいと思うんですが、最初に書いてあります1人目、学習障がい、小1の男子は、お勉強重視の幼稚園に通っていたことから、就学前から読めない、書けないことを体験し、字を見ることも嫌がっていた。幼稚園でも学年が進むたびにどんどん自信を喪失していく姿を感じられていた。小学校入学時

よりデイジーを使用し始め、音読の宿題のみに使用している。デイジーの声の後について読むが、耳から聞こえる声の真似をしているように見受けられる。デイジーでの学習した箇所は文章のあらすじなどが理解でき、授業でも自分から進んで発表もしているようだ。最近では字を見ることを嫌がらなくなった。遅いながらも板書ができたり、明日の連絡ノートが書けたりしているというふうにならずと書いてあるわけなんです、それぞれの障がいを持たれたお子様の保護者の方のデイジーを使っの感想がずっと載っておりますので、また見ていただけたらと思います。

最後のところなんです、最後に書いてあるこの会の代表の方の声なんです、息子のご報告をいたしますと。小6の男児、LD、ディスレクシアと。息子はデイジーに出会って本がもっと読みたいと言った。先日は父親に中学生ぐらいが読む本をねだって買ってもらった。勉強がしたい、本が読みたいと思っいても、これまでは読める本がなかった。これからはもっと読める本が届けられるといいと思う。息子の変化は驚くほどのもので、デイジーは息子だけでなく困難を持つ人たちの人生を変える大きな存在だと実感している。今後も普及開発に大いに期待したいという、最後のこの部分なんですけれども、本当にデイジーが困難を持つ子どもたちにとって、その人たちの人生を変えるほどの大きな存在だと、そのように感じたというふうにならずと書いてあるわけなんですけれども、そういうふう感じた。それは本当にすごいことだと、本当にそこをすごく痛感しました。自分はだめだとあきらめていたそういう子どもたちがデイジーという教科書に出会うことによって、本当に本を読むことが楽しくなると、本を読むことが好きになって、また学校へ行くことが楽しくなると、そういうふうになって、よし、頑張ろうと希望を持って人生を前向きにとらえてくれる児童・生徒になっていくことが、そういう子どもたちが本当に1人でも出てくれるようになることが、本当にそれはどれだけ教育の中でうれしいことかと、そのように思います。

1人の人を大切にという、そういう思いが、この精神が教育問題の姿かというふうにするわけでありまして、そういうことを本当に感じながら、このデイジーの取り組みをまた推進していただきたいなというふうにする。

――略――